

リレーデビュー 矢板の未来を紡ぐ

社会教育委員長・矢板市区長会副会長

坪山岩男さん



9年前に矢板高校を最後に退職。公職のほかにも、まちづくり研究会などの市民活動にも参加、様々な世代の人と交流。趣味の竹細工、書道、英会話など、席の温まる暇がありません。漏れ聞くと「晴耕雨読の田舎紳士」だとか…。

上野から東北線に乗って最初にぐぐるのが針生のトンネルです。その入り口に一番近いところにお住まいの坪山さんに、リレーインタビューのトップバッターをお願いしました。

行動力の源は「わからないままやってみる！」

あるとき、家の前にカメラを持った人だかりができて、不思議に思い、中の一人に尋ねると何も答えてくれません。それならと、自分で愛用のカメラを持ち出してその人だかりの中に混ざって何が起きるのかを待っていました。すると、トンネルに向かって姿を現したのは古い電気機関車「音にカメラのシャッターが切られ、「ああ、

これだったのか」と、納得しました。とりあえず、何が起るかわからないまま行動してみよう。どうやら、これが私の性分の方です。
定年退職から始まった新しい人生
定年退職は私の人生の中で一番大きな転機だったように思います。長年の仕事から解放されホッとした反面、「自分の自由な時間が持てる！いろいろなことが出来るぞ！」とワクワクしました。退職を機に、今までお世話になっていた地域に奉仕しなければという気持ちもあり、誘われるままにいろいろなことに関わったり、好きなことを始めたり、定年前より忙しくなっていました。

市民力は矢板の未来を作る宝物

今回の花火大会を実施できたことは、大きな市民力だし、その力を出す事ができる矢板市民なのだと思います。こういつた市民力は、これからの時代、ありとあらゆるところで必要になります。今の日本の状況では、矢板の人口が五万人、十万人になるとは考えづらいし、今の三万五・六千人より大きく増えることはないのでは。自然増するのならそれはそれで結構なことだと思いますが、人口を増やすことに腐心するより、四万人レベルの都市の運営をすればいいのです。

市民力をもって市民力を育む・・・10年後、地方都市の魅力は市民力で決まる

基本的な財源を確保しつつ、市民力をより活用しながらやっていければいいと思います。十年後には、ボランティアを含め、市民力が行政や市民生活の中に入っているのを得ないでしょう。例えば、介護、福祉の現場で、定年退職した元気の第三者がボランティアとして関わる事は十分可能です。今、社会的に大きな課題になっている、年配の夫婦が年老いた夫を介護するといった老老介護ではなく、元気な中高年が介護する、明るい老老介護ですね。ボランティア参加した人はポイントを貯めることができ、自分が介護を受けるとき、そのポイントを使うこともできるし、そのポイントを介護保険料に代えることもできるなど、市民力を提供することでメリットの生まれやすい方もあるのではないのでしょうか？

また、矢板にはシルバード大学の東北校があり、東北の元気な中高年がいっぱい参加していますが、この卒業生は矢板にとっても宝物です。もっとその力を活かせる場を提供できるのではないのでしょうか？
そのために、そういった市民力を活かすためのシステムをつくり、「コーディネート

トしていく人間が必要でしょう。そして、そういう人と行政が関わっていく必要があるかもしれません。また、眠っている市民力をもっと活かしていくには、情報をオープンにすることが重要です。広報や、かわら版などもその役目を担っていると思いますよ。

市民力をさらに育てるためには・・・

教育の原点は、小学校教育にあると思います。読み書き計算などの基礎教育をしっかり身につけさせることです。
今盛んに言われる、子どもたちの学力低下や不登校の原因のひとつに、子どもたちと先生が接する時間が足りないことが考えられます。もっと先生と子どもが触れ合うとか、習熟するまで丁寧に教えていくことで様々な力をつけてやる事ができるし、学校に来ることが楽しくなるのだと思います。今は、先生たちの仕事があまりにも多くなり、なかなかそういう時間がとれないのが現状でしょう。

ですから、私は、ボランティアを教育現場に入れたらいいと思っています。例えば、定年退職した教師を再度学校へ入れて手伝ってもらおうです。子どもたちが

を熟知する元教員を学校に入れるのは可能なことです。そして、もう一つは家庭教育。親はもっと威厳を持つて欲しい。ダメなことはダメときちんと言える気概を持つことが必要だと思えます。しかし、少子化が進み、どうしても親の過保護、過干渉で自立しない子が増えているような気がします。そういう子に丁寧に関わりながら生きる力を育むことも、教育ボランティアが学校に入ることで可能になるのではと思います。
経験豊かな人に、教師や親をフォローしてもらおう。いわば、市民力をもって市民力を育てる循環をつくっていくのです。

これからの自分の十年は一病息災で
どう生きるかというよりも、どういう死に方をするかということが気になります。

成人病検診で見つかった持病と上手くつき合い、一病息災で今の活動を続けながら、潔い死に方ができたらと思います。
新しい軽トラックも買ったので、これからも、自分の市民力に磨きをかけるためにいろいろなことに挑戦していきますよ。